

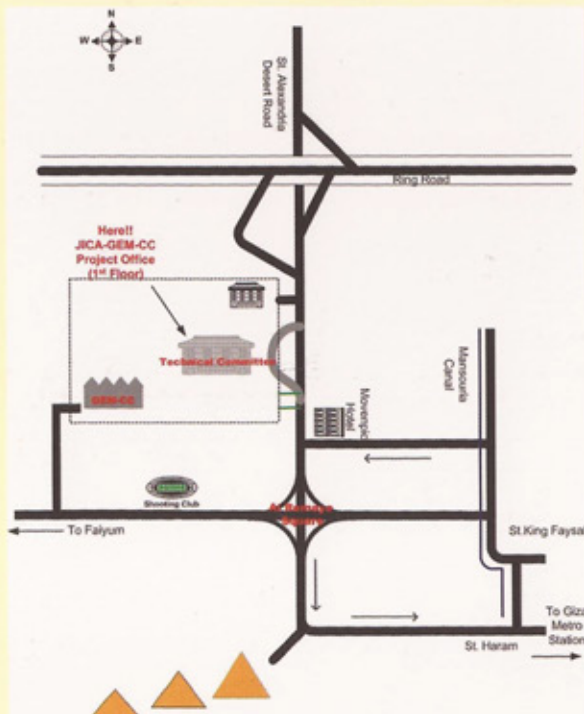
大エジプト博物館 (Grand Egyptian Museum:
GEM) プロジェクト



古代エジプトの至宝を所蔵する新しい博物館の建設が、三大ピラミッドで有名なギザ台地の裾野で2015年の完成を目指して進められます。

GEMは、ピラミッドの幾何学を取り入れた現代的で斬新なデザインの建物です。内部にはツタンカーメン王コレクションをはじめとする人類の貴重な遺産を展示し、機能的にもこれまでエジプトの博物館には手薄だった、さまざまなビジターサービスの提供や研究施設を併設し、豊富な収蔵品を通じて古代エジプトの文化や技術を学ぶことができる展示・解説や、さらには児童や成人向けの教育施設、研究者向け施設、身体障害者の方にも優しい内装設計、ギザのピラミッドを一望できる庭園等が取り入れられる予定です。

独立行政法人・国際協力機構(JICA)は、政府開発援助(ODA)の実施機関として、エジプトに対し、348億円(約4.5億ドル)の有償資金協力(円借款)を行い、GEMプロジェクトを支援しています。日本の協力は、特に博物館建設、展示や内装、建物のデザイン設計や情報コミュニケーション技術(ICT)の開発資金に当てられます。



JICA大エジプト博物館保存修復センター
プロジェクトの詳細については、
下記のホームページをご覧ください。

JICA 公式ウェブサイト

(日本語または英語)

[http://www.jica.go.jp/project/english/egypt/
0702247/news/index.html](http://www.jica.go.jp/project/english/egypt/0702247/news/index.html)

プロジェクトウェブサイト

(日本語、英語、アラビア語)

<http://www.jicagem.com/>



JICA

大エジプト博物館保存修復
センター



大エジプト博物館保存修復センター (Grand Egyptian Museum Conservation Center: GEM-CC) プロジェクト

古代エジプトの文化遺産はエジプト人にとってアイデンティティの一部であると同時に、世界の垂涎的でもあり、重要な観光資源でもあります。2009年、エジプト政府は自国の予算で、GEMの収蔵品を保存修復するために、最新設備と機器を備えた大エジプト博物館保存修復センターを建設しました。

このセンターで業務に当たる保存修復家の技能が十分でないため、日本はエジプト政府の要請に応え、GEMプロジェクトへの有償資金協力(円借款)とあわせ、エジプトの文化遺産の保存修復家に関わる人材を育成する技術協力プロジェクトをGEM-CCの設立の前段階から実施しています。将来的には、GEM-CCは、エジプト全土の文化遺産の保存修復作業を担い、古代エジプトの技術を研究する機関として、さらに北アフリカ・中近東地域における国際的な保存修復拠点として成長することが期待されています。

GEM-CCに対する支援の内容は、保存修復家への研修を中心とした技術協力です。本プロジェクトの推進のためには、保存修復に専門的な知見を有する機関の協力が不可欠であることから、独立行政法人・国立文化財機構・東京文化財研究所の全面的な協力を得て実施しています。

本プロジェクトは、2008年に準備段階としてのフェーズ1を開始しました。フェーズ1では、日本人専門家によるGEM-CCスタッフへの専門的アドバイスや日本国内や現地でのさまざまな研修の他、考古遺物データベース部(Archaeological Database Department:ADD)を設立し、文化財データベース構築支援を行ってきました。また、本格協力期間となるフェーズ2に向けて、保存修復人材育成プログラムを作成してきました。フェーズ2は、2011年7月から開始され、2016年3月まで5年間の予定で実施しています。



文化財保存修復家に対する人材育成

JICAは、GEM-CCに所属する約140名の保存修復、保存科学、考古学の専門家に対して、日本人専門家や第三国からの専門家を講師とし、人材育成プログラムを提供しています。

保存修復人材育成プログラムは、以下の二つの目標を掲げて進められています。

- ・予防保存と科学技術の応用を重視しながら、スタッフの保存修復の知識や技術を高める
- ・GEM-CCが保存修復活動や研究活動において、北アフリカ、中東地域における国際的な保存修復機関に成長すること

2008年からこれまでに下記テーマの研修を日本やエジプトで実施してきました。

「安全衛生」、「総合的害虫管理(IPM)」、「文化財移送・梱包」、「遺物取り扱い」、「写真撮影」、「保存修復マネージメント」、「染織品保存修復」、「金属保存修復」、「紙保存修復」、「保存修復分析機器」、「微生物」

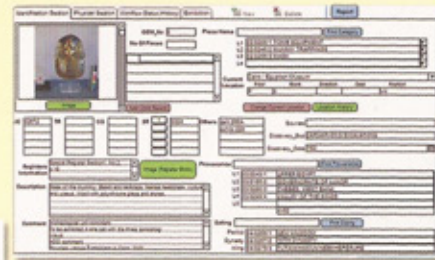
さらに、日本人とエジプト人が共同で「環境計測」チームを発足させ文化遺産を適切に保存・管理することを目的として、GEM-CC内の温度・湿度、有害ガス、微生物等のモニタリング調査を実施しています。



考古遺物データベース部(ADD)

正確な文化財のデータベースは、膨大なコレクションを有する博物館にはなくてはならないものです。優れた展示デザイン、効率的な遺物の移送や収蔵品管理は、一つ一つの文化財に関連した正確な情報があってこそ可能になります。

GEMは文化財データベース作成を開始しましたが、誤った情報の入力やデータの重複等の問題が発生しました。JICAは、ADDを立ち上げることで正確な文化財のデータベース作成を支援することにしました。ADDの目標は、精度の高いデータベースを構築することに加え、マネージメントや効率的な作業手順、業務実施のルールをエジプト人スタッフとともに確立し、文化財保存を担う人材を育成することにあります。



エジプト人考古学者と日本人のIT専門家や考古学専門家や青年海外協力隊ボランティアが、ADDチームとして活動しています。ADDでは、チームが効率的に仕事をできるようにまず作業手順やマネージメントのマニュアルを作成しました。作業は、エジプト各地の博物館や収蔵庫でGEMに収蔵される予定の文化財を一つ一つ確認することから始まります。ADDの作業基準に基づいて、登録番号の確認や訂正、大きさや重さを量り、最後に写真撮影を行い、その後、収集したデータを正確にデータベースに入力していきます。

ADDが作成したデータベースの情報は、GEMの展示計画や文化財をGEM-CCへ移送・梱包する学芸員や保存修復家の作業に活用されます。ADDチームは2012年にGEMに引き継がれます。ADDが構築したデータベースは、大エジプト博物館情報センター(Grand Egyptian Museum Information Center: GEM-IC)の発足にあわせて同センターへ引き継がれ、博物館での持続的な収蔵品管理に役立てることが期待されます。